



今年は、暑い夏となり「暑熱対策」のもと、試合も行われています。

皆さんの体調はいかがでしょう？選手の環境も大切ですが、審判員である皆さんの環境も大事です。選手が飲水タイムをとっている、負傷者が出て試合が中断しているときなどに摂れるのであれば、水分補給をして下さい。また、「飲水タイム」をとったときは必ずアディショナルタイムも1分はありますので、お忘れなく。

さて、先日各地区にも競技規則改正に関わる伝達をしています。8月1日以降の大会で適用していきますとご案内していますが、知事杯は決勝戦が8月27日ということから、1回戦7月22日より改正された競技規則が適用されています。



2017/18 の改正の前に、2016/17にかかわって確認します。

1 オフサイドに関して

2015/16までは、「オフサイドの反則が起きた時、主審は、味方競技者の一人が、オフサイドの反則を犯した競技者に対して最後にボールをプレーしたときに、オフサイドの反則を犯した競技者がいた場所から行われる間接フリーキックを与える」となっていました。

2016/17では、「オフサイドの反則があった場合、主審は、その競技者のハーフであっても、反則が起きたところから行われる間接フリーキックを与える」

と、改正されました。簡潔にオフサイドポジションにいる攻撃側競技者をオフサイドの反則として相手チームに間接 FK を与えるかどうかの状況をまとめると、①プレーを妨害 ②相手を妨害 ③その位置にいて利益を得る となります。ですから、以前のように、味方競技者がボールをプレーしたときに、オフサイドの反則となる競技者がいた場所から FK が再開されるのであれば、副審はその場所に留まっていたよかったのですが、昨年改正されこのシーズンから適用している競技規則では、副審はオフサイドポジションにいる競技者、あるいはボールの移動にあわせて動いていて判断することになります。動いていて旗があがるという感覚です。

また、再開場所については主審がリードするようにして下さい。副審が旗を使って、「もっと前」とか、「ここ」ということで、ボールが置かれるまで副審の旗が降ろされないということではありません。主審が「ここ」でも「このあたり」でもよいので、オフサイドの反則を適用したのであれば、**主審が再開場所をリードして試合を再開**させて下さい。

そして、p194 「・・・罰せられることがある。」を確認しておいて下さい。

2 PA内で、相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害、または阻止するためにファウルを犯した時に、そのファウルがボールをプレーしようと試みて反則を犯した場合は警告は与えなくてよいとなりました。

3 その他

Q1 試合開始前の警告の処置、退場に値する行為についての処置は？

⇒警告相当である事、報告書に記載する事を、本人とチームに告げる。（その試合の警告1とはカウントしない）退場の場合は、退場相当である事を本人と両チームに告げ、当該競技者は試合に出場できない。交代要員から補充を認める。

Q2 第11条 オフサイドの判定の時に、プレーとリバウンドの違いの質問がよくある。

⇒意図的にボールをクリアやパスするプレーと、ゴールに入りそうなボールをプレーするセーブやボールに当たることとは異なる。前者はこれまで「プレー」と説明されており、後者は「セーブ」、「リバウンド」と説明されてきた。

Q3 相手競技者に「挑む」とは？

⇒相手競技者にチャレンジする際、キッキング、プッシング、トリッピングなどに含まれない行為（例えば、膝や臀部等でぶつかっていくような行為）

Q4 ホールディングで反スポの警告になるプレーは、今年の改正で競技規則で具体的記載がなくなったが、警告に該当しなくなったのか？

⇒相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害、または阻止するファウルを犯す。この項にはホールディングの反則も含まれる。

Q5 大きなチャンスとは？

⇒ゴールまでの距離がある程度あっても、プレーするスペースが有ったり、攻撃の方向や勢いがゴール方向へ向いており、また攻撃側競技者の数が多くプレーの選択肢が多い場合は、大きなチャンスとなる攻撃と考える。大きなチャンスとなる攻撃の判断は、反則とゴールまでの距離、ボールがコントロールされているか、プレーの方向、守備側競技者の数と位置、攻撃側競技者の数と位置、スペースの有無、プレーの選択肢（ドリブルやパスコース）をいくつ持っているか

Q6 GKのボールの保持について、バスケットボールのドリブルのようにして移動するケースは？どこまでが許容範囲か

⇒手での(バスケットボールのように)ドリブルすることについての制限はない。6秒を超えてコントロールする事が反則となる。バスケットのようにボールをドリブルしている場合は、ボールはGKのコントロール下にあり6秒のカウントの対象になる

Q7 「ブロックする」の意味

⇒ブロックとは、相手の動きを自ら障害物になって止めること、止めようとする事。身体的接触がなければ間接フリーキックが相手に与えられ、身体的接触があれば直接フリーキックが与えられる

Q8 PKのキックの笛の後にGKの露骨な侵入があり、GKへの警告を求めるなどして、キッカーがキックを完全にやめてしまったら？

⇒キックをやめることが不正なフェイントでない限り、まだキックを行っていないので、GKを所定の位置に戻し、笛を吹き、キックを行わせる。キックの結果が出ていないので、GKを警告することはできない。

競技規則に関わる点が不明な点がありましたら、所属の審判長、そして、地区審判長からHKFA審判委員会へお問い合わせをお願いします。